
White Breath e.p.

藤森優斗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

White Breath e. p.

【Nコード】

N0785H

【作者名】

藤森優斗

【あらすじ】

詩のただ載せていくだけの小説。詩だけでも物語と繋がるものがあります。

カエデの唄

最後の一枚を落としたら　そこで全部　終わりにしよう
僕等はずっとそうしてきた　何でも諦めつくように

誰もが嫌になったけど　隠れた部屋にはドアノブつけた
「寂しい」と思う気持ちの意味は　一人でなんか生きないように

聴こえてくるのは　誰かの声じゃなくて
耳障りな目覚まし時計

それもそう　それが現実だから

汚れて　傷付いて　「生きる事に疲れたよ」

心配ない　最後は望み通り来る

その時までには生きよう　カエデ……カエデ……

誰もが嫌になったけど　逃げた道には足跡つけた

「愛しい」と想う気持ちの意味は　誰かを必要とするために

最後の一瞬を迎えたら　そこで全部　終わりにしよう

「生きた事も悪くはない」　それを自分への遺書にして

間違いではない　寧ろ正解だった

誰かを求めたその両手

汚れたのは　御互い様だろ？

「嫌だ　もう嫌だ」　言いたい放題だろ

その時だけ　誰でも　正直者だよ

諦めは得意だから　カエデ……カエデ……

最後の一枚 カエデの葉 落ちたら もう 戻りはしない
最後の一枚 カエデの葉 落ちたら 「じゃあ さようなら」

聴こえるのは 目覚まし時計

それもそう それが現実だから

「汚れた もう嫌だ」 間違えた姿じゃない

大丈夫 世界は君を待っていた

必要な存在だから カエデ……カエデ……

誰もが嫌じゃなかったけど 最後の部屋には鍵をかけて

「さようなら」と小さく呟いた 最後は一人になるように

After yesterday ship

本当に汚れた くだらない日々から
降りてしまおうか 「自信がない」

昨日は惜しかった あと少しで良かった
素晴らしい日々に 手が届かない

使いすぎて汚れたキャンパス
何を描く事もなく 涙に濡れるけど

After yesterday ship
死なない限り 僕等は明日を待っている

After yesterday ship
死なない限り 希望の船は僕等を待っている

産まれた時から 駆け上がる階段
最後はいつかな? 「死にたくない」

無くしすぎて空のポケット
あんなに溜めたのに いつ無くしたのかな

After yesterday ship
「まだ大丈夫」 僕等は昨日を持っている

After yesterday ship
「まだ大丈夫」 この命はまだ途中だと信じたい

昨日を生きたから 今日僕等を迎えに来た
今日を生きたから 明日は僕等を迎えに来る

だから今を 生きている事
それも全て 死ぬまでの事

A f t e r y e s t e r d a y s h i p
死なない限り 僕等は明日に会いに行く

A f t e r y e s t e r d a y s h i p
死なない限り 希望の船は僕等に会いに来る

A f t e r y e s t e r d a y s h i p

くだらない日々 明日は素晴らしいかもしれない

A f t e r y e s t e r d a y s h i p

くだらない日々 明日は素晴らしいかもしれない

本当に汚れた くだらない日々でも

愛してみようかな 少しでも

Dead man Parade

全てを取り巻く気体の中に 貴方の嫌気があるのなら
大口開けて 食べてやろう 心が病んで何が悪い？

向き合う事に疲れただけ ただ それだけ
生きてる事に嫌気差しただけ ただ それだけ

それだけの事だから 気にしないで 生きて

何度も繰り返し傷を増やして 治るものがあるのなら
俺の右手は君にやろう 気が済むまで好きにやれ

本当に意味があるのなら ほら あげるよ
傷付けて傷が治るなら ほら あげるよ

意味がないと言うのなら ただ今でも 生きて

いつかは灰になって散って
泣いちゃって なんか 悲しくて
いつかは灰になって散って
死んじゃうと なんか 悲しくて

それならば ただ 生きて

世界が無視する射程距離に 貴方の姿があるのなら
それはそれで 良しとしよう 孤独を愛する住民です

一人の姿を見慣れただけ ただ それだけ

手首の傷も散々 見慣れただけ ただ それだけ

痛いのは傷じゃない その部分だよ 「分かってる」

碎けて 粉々だって 知って

病んじやって 何か 殺したくて

碎けて 粉々だって 知って

死んじやうと 何か 殺したの

誘われてんだ あっちに見えるぜ

不気味な姿で光を放つ デッドマンのパレードが

誘われてんだ もう そこに居るぜ

綺麗な白で闇を漂わす デッドマンのパレードが

遺体になって夢じゃない それまでなら 生きて

居たいのはそこじゃない 今はまだ 生きて

明日になったら 光の中で生きてるかも

明日になったら 闇の中でも光れるかも

明日になったら 陽の光で起きれるかも

明日になったら また 明日が来るのかも

誘われたって まだ 今じゃない

誘いの用なら また 後にしよう

いつかは行くぜ 死体になって パレードに

Under Light

間違い探しばかり 疲れて 答えも無しに 結論を
それ自体が間違いだらけ ふざけて 滅茶苦茶な世界

問答無用に変わる 時代 付き合いきれない 流れの中
本当の時間は何処に行った？ 狂って 粉々に白

目の前に広がる残骸 落とした抜け殻 辿って
今日に着いた その先を問う
どうしろってんだ こんな時代で何だって？

イマ 僕の目の前で世界が変わってしまふ
置いていかれる その速さに 殺されそうさ
イマ 君の目の前で世界が砕けてしまふ
灰に消える その時に 殺しの作業 終わらせて

彼なら何でも出来よう だからさ この時代に 俺は無
その彼女だって良い なら そう 君も居ない世界

苦し紛れに吐いた遺文 意味の消息 潜って
底に堕ちた モノ良くも酔う
どうしろってんだ 戻れない底なんだって

イマ 僕の目の前に世界が創られていく
仕様も悪く そのデザイン 狂ってるぜ
イマ 君の目の前に崩れる瓦礫に埋まる
底が消える その瞬に 命の灯を 灯す準備を

一体どうしたって言うんだ？ この景色見て 何を思う？
一体どうしたって言うんだ？ この世界の色 分からない

血も飛沫を覚えたね 海は色を変えたね
地の割れも増えたね 地球は形を変えたね
僕の居場所は消えたね 灯はもう 無いね
君の居場所が増えたね また 陽が昇るね

イマ 僕の目の前で世界が壊れてしまう
イマ 僕の目の前で世界が狂ってしまう

イマ 僕の目の前で世界が変わってしまう
置いていかれる その速さに 殺されそうさ

イマ 君の目の前で世界が碎けてしまう

灰に消える その時に 殺しの作業 終わらせて

イマ 灰に消える前に 灯の証を 撮ってみて

イマ 世界が狂う時に 人の悪さを採ってみて

ブルーバタフライ

君の色は何色？ 何をして生きていくんだ？
移り変わりの激しい この時代の中で
君の足は何本？ どうやって歩いていくんだ？
地雷だらけのような この世界の中で

君の昨日はどうだ？ 何をして過ごしたんだ？
いつ死ぬか分からない 騒がしい毎日
君の今日はどうか？ 何をして過ごすんだ？
いつ死ぬか分からない 賭け事の毎日

飽きたから そろそろ 辞めよう
死ぬんだし まだまだ 生きよう
分からないし これからどうしよう
この時代を上手く生きる 術とか教えて

平和に生きて 何と無く過ごして
それでいいんだよ それが人生だよ
平和に生きて 何気無く死んで
それがいいんだよ それでいいんだよ

君の声はどんなの？ 高いのか 低いのか
自分すら見失う 濁った時代の中で
君の趣味は何？ 映画？ 音楽鑑賞？
個性すら無くしそう 狂った世界の中で

意味無いし 考えは 辞めよう
疲れるし 努力を 怠ろう

死にたいし 諦めも白い

この時代を好きになる コツとか 教えて

平和に生きて 何かしら大事で

それでいいんだよ 当たり前だよ

平和に生きて 何かしら無くして

それがいいんだよ それでいいんだよ

予定調和に鈴の音 沈んだ島に銃の声

壊れかけたライトを持って来いよ

不協和音と蝶の羽 歪んだフレームに君の声

狂いきった世界を助けてよ

助けてよ 助けてよ 助けてよ

平和に生きて 何と無く過ごして

平和に生きて 何気無く死んで さあ

何があるんだ？ 何をするんだ？

こんな世界だって 俺達はまだ生きてるぜ

何もかも上手くいかない それから どうした？

旗を掲げた男は昔 最後に「笑え」と言った

そんなもんだよ それでいいんだよ

平和に生きて 何気無く

水色のスカーフ、揺れるフローラ

雨の降る夜道を駆けていく
びしょ濡れになって 隠された頬の涙

桜舞う夜道を駆けていく

花吹雪パレード 綺麗だね 吐息のメロディー

旋回 夜を巡り 涙の乾いた朝

「じゃあね」 死骸 ラプソディー

鼓動 ドラム シンフォニー

震えている 水色のスカーフ

いつかはこの世を駆けていく

神様のじゃんけん 勝ち負けの不確定要素

世界 混沌を辿り 目が覚めた朝

「じゃあね」 死骸 フレンドリー

ほら 聴こえる ララバイ

静かに 揺れるフローラ

無色透明の感情が 無惨なまでの関係で

それでも 駆ける 雨 今日も止まない

無音 フレット 響く飛沫 歓喜の唄を

くだらない世界を 下っていく

見間違えバラッド ネズミ達の小さな住み処

変換 夜を越えて 出逢えた目覚まし

「うるさい！」 視界 ニューワールド
ほら 聴こえてる バードソング
消えていく 夜回のパレード

無色透明の夜明けが 無人のままの惑星で
そこから 駆ける 陽はまだ見えない
矛盾 カラット 光る何気 懺悔の声を

また そうやって 陽は昇って
諦めの白 赤を灯し始めていく
また こうして 陽が落ちて
屈辱の青 橙も眉間に皺寄せて

ほら 渡っていく 星の海
水色のスカーフ 揺れるフローラ

無色透明の感情が 無惨なまでの関係で
何処かへ 駆ける 雨 どうせ止まない
無音 フラット 大気の中に 歓喜の唄を

ああ 突然 心を刺していく 酷い雨 今日止まなくても
ああ 当然 今日何と無く 酷い雨 今日駆けて行く

この世界に堕ちていく

何も無いほどに 何かに囲まれていて
僕等は「一人だ」と、何かを間違えて

「死にたい、死にたい」と、今日も喚いてる
呼吸さえ裏切れるほど 脆くなっていた

誰もいない場所に 僕がいる時点で

「そこには誰がいる」と、独り言になって

「死にたい、死にたい」と、彼女が泣いてる
呼吸さえ忘れ去るほど 狂ってしまった

どうせなら あの日 泣かなければよかったか

「生きたい、生きたい」と、泣いた あ的第一天の瞬間を

僕が生きている 君も生きている

それだけが正しくて それだけが間違えていて
僕が生きている 君も生きている

それだけで嬉しくて それだけが怖かった

下手をすれば僕達 自分すら裏切り

「本当にいるか？」なんて、疑問を持っていて

「消えたい、消えたい」と、彼は引きこもって

「世界から見離された」と、勘違いを知った

この際だし この日 失くす覚悟でもよかったか

「聴きたい音なんて無い」 その心臓の鼓動も

僕が生きている 君も生きている

それだけが現実で　それだけが夢のように

「遙か昔、歴史の中に　ある二人の姿が写っていた。
手を繋ぎ合う仕草も無しに　二人は繋がれたと言った。
彼が居なくなった時、彼女は生きていく事を知った。
彼女が居なくなった時、彼は愛する事を知った。」

そして　お互いを失くして　涙の中の温もりに
二人は「幸せだ」と言った　何も無い世界で無くして見つけた
生きている事を

僕が生きている　君が生きている
それ自体が奇跡で　それだけは必然だった
僕が生きている　君が生きている
その理由は無くて　その全てが意味だった

僕が生きている　君が生きている
それだけが正しくて　それだけが間違えていて
僕が生きている　君が生きている
それだけで嬉しくて　それだけが怖かった

僕が生きている　君が生きている
この世界に生きて　この世界を生きて
僕が生きている　君が生きている
この世界に生きて　この世界を生きて

生きていたい……

My dead girlfriend

戯言垂らして生きてる 鼻水垂らして笑ってる
その狂った目で 何を今更 生きてると思ってるのか？

死に方ばかり考えてる 手首に傷を増やしていく
その尖ったカッターで そうさ この際 血溜まりで泳ごうか？

分かんねえ 聞こえねえ 皆 何を喋ってる？
ふざけんな くだらねえ 何だ 狂ってるのか？

My dead girlfriend 面白いね
何かいろいろ垂れ流して 「愛して」なんか言ったもんだ
My dead girlfriend それもそうね
「明日また逢おうね」って 昨日 彼女が言って 逝った

窓辺のパンジー 枯れていた 何が肝心か分かってる
でも狂った目で 何を今更 愛されてる気でいんの？

臭いねえ 臭うねえ 皆 何を持ってるの？
暇なんだ 遊んでくれ 何だ 嫌ってるのか？

My dead girlfriend くだらないね
参加料の支払いなら 死ぬ事だけで勘弁です
My dead girlfriend 汚いね
ゲロまみれの彼女の姿に お世辞じゃなく「綺麗」と言えそう

誰か 愛してくれ 愛してくれ 愛してくれ
腐りかけた目で生きる 俺の体を感じてくれ

誰か 気付いてくれ 気付いてくれ 気付いてくれ
狂いきった目で生きる 俺の姿を見つけてくれ

戯言垂らして生きてる 鼻水垂らして笑ってる
その狂った目で 何を今更 生きてると思ってるの？

分かんねえ 聞こえねえ 皆 何を喋ってる？
ふざけんな くだらねえ 何だ 狂ってんのか？

My dead girlfriend くだらないね
参加料の支払いなら 死ぬ事だけで勘弁です

My dead girlfriend 汚いね
ゲロまみれの彼女の姿に お世辞じゃなく「綺麗」と言えそう

My dead girlfriend 面白いね
何かいろいろ垂れ流して 「愛して」なんか言ったもんだ

My dead girlfriend それもそうね
「明日また逢おうね」って 昨日 彼女が言って 逝った

逝ったんだ

デッドエンド・ラブ・ダンスフロア

嫉妬を舐めてる 切り裂かれそうな雑誌の中は世界の終わり
錆び色の意味 綺麗事ならではの本気のジョーク 笑えるぜ
雑草育てて 夜が明ける そこで待つのは俺をじゃない
何もかも分かってんだろ? なぁ ミスター・ロンリー
お前が暮らすその場所は どう見たって 愛の墓場さ

デッドエンド・ラブ・ダンスフロア 踊って
デッドエンド・ラブ・ダンスフロア 狂ってんの アンタ

シップ冷めてる 吐き気の繰り返しで回るだけなら世界の終わり
媚び付いた意味 汚れて飲まれた液体は緑色 止してくれ
雑談話して 火が消える 待つ焦がれるのは俺じゃない
そのくらいは分かってんだろ? なぁ ミス・ガールフレンド
お前が持つてるその鞆は どう使ったって 愛の墓場さ

デッドエンド・ラブ・ダンスフロア 踊って
デッドエンド・ラブ・ダンスフロア 狂ってんの アンタ

嫉妬を舐めてる 切り裂かれた手首の血飲んで世界の終わり
気持ち悪い意味 綺麗事ばかり並んだゴミ屋敷の部屋 住んでいる
原爆の下 陽が湿る 憧れてるのは俺じゃない
この世界は腐ってるんだろ? なぁ 分かってんだろ?
俺らが住んでるこの場所は 残念ながら 愛の墓場さ

デッドエンド・ラブ・ダンスフロア 踊って
デッドエンド・ラブ・ダンスフロア 狂ってんの アンタ

デッドエンドって分かってる 俺の姿は腐ってる
ラブって事も分かってる 俺の声は嗄れている
吐いて 生きる この世界はダンスフロア

嫉妬を舐めてる 切り裂かれそうな雑誌の中は世界の終わり
錆び色の意味 綺麗事ならではの本気のジョーク 笑えるぜ
雑草育てて 夜が明ける そこで待つのは俺をじゃない
何もかも分かってんだろ？ なぁ ミスター・ロンリー
お前が暮らすその場所は どう見たって 愛の墓場さ

デッドエンド・ラブ・ダンスフロア 踊って
デッドエンド・ラブ・ダンスフロア 狂ってんの アンタ

デッドエンド・ラブ・ダンスフロア
デッドエンド・ラブ・ダンスフロア

踊り狂ってんのさ 死んだこの世界の終わりで

デッドエンド・ラブ・ダンスフロア
デッドエンド・ラブ・ダンスフロア

踊って 狂ってんの アンタ

White Breath

生きていく理由が無い 生きてきた理由も無い
気づけばまた朝になっていた そんな繰り返しで
腐りきっていたらしい 狂いきっていたらしい
使い物にならない精神状態 クスリも効かないで

産まれてきた意味が無い 産まれるべき意味も無い
いくら試みても まだ生きていた 死ねない馬鹿で
腐りきっていたらしい 狂いきっていたらしい
どうにもならない精神状態で それでも生きていた

とつくに破いた 明日の陽射しを
また 求めてみようか

気付いて
外に出れば ほら
まだ 白い息が見える

生き甲斐になる物が無い 行き場所がある想いが無い
身が追いつくほど遅い時代じゃない そんな世界の中で
嫌になっていたらしい 死にたくなっていたらしい
救いような無い精神状態で 救いの手を待っていた

とつくに殺した 血だらけの希望とか
まだ 何処かにいるか

気付いて
外に出れば ほら

まだ 白い息が見える

「何もかもが悲しみに染まるんだろ」って
「誰もが皆、憎みで生きてんだろ」って

だけど 何もかもに何か違う色があって
だから 誰もが皆、何か違う色でいた

とつくに破いた 明日の地図とか
もう 見つからなくても

生きていたらしい 死にたくならしい
救いような無い精神のまま 救いの手を探したらしい

気のせいで
途絶えていた 息

まだ 心臓の音は響いてる

気付いて

外に出れば ほら

まだ 白い息が見えるから

生きてんだよ

生きていく理由も無いまま それでも

生きてんだよ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0785h/>

White Breath e.p.

2010年10月19日13時15分発行